

気持ちを新たに

～日本語能力試験5級合格を目指して～



倉庫の中 場所がわかるよう分別

園にはお客様からいただいた文具、洋服、日用品、遊び道具等を保管している倉庫があります。年度末に、どんなものがあるかをつらねて数えています。片付けている際に、開園当時からあると思われるもの、使う機会の少なそうなもの、使い切れないものを見て、考え深いものがありました。子どもたちはお客様からいただいたご寄付のおかげで、困ることなく勉強することができています。鉛筆1本なくしても、鞆が壊れても、すぐに新しい物を渡すことができます。

しかし、文具を買うお金がないという理由で学校へ通うことが出来ない子どもがいるという現状があり、園の倉庫には使い切れない文具が眠っているのです。いただいたものは無駄にしてはいけない、しかし無駄使いをさせていいというわけではありません。現在、園で使いきれない物は、SAJが建設した学校へ持って行く等取り組んでいます。

いただいたものを無駄にすることなく、ご寄付をしてくださった方の思いも一緒に子どもたちの元へ、しっかりと届けていきたいと思えます。

今回のDREAM通信は、クメール正月の帰省の様子、日本語授業の様子をお届けいたします。

クメール正月里帰り

4月14日～16日はクメール正月で、半年ぶりに里帰りをしました。ほとんどの子どもは貧乏が理由で入園しており、家庭環境はさまざまですが、皆それぞれ帰る家があります。

職員が送り迎えをし、家族に日ごろの様子や成績を伝えます。子どもたちも、家族も久しぶりの再会で本当に嬉しそうです。

里帰りが終わると、家に帰る前と様子が違う子どもが毎回いますが、今回はスン・ティダエン(小5)が家に帰りたいと数日泣いていました。帰る家があり、甘えられる母親がいれば、園にいる理由がわからなくなり、つらい思いをする子もいます。園にいる理由をそれぞれが理解し、努力し、将来大好きな家族を守る事が出来るように強くなってほしいです。



里帰り前日のお祈り



プレイヴェン州 パエット兄弟と父親

日本語授業

当園を卒園後、王立プノンペン大学の日本語学科を卒業、現在職員として働いているスレイノイによる日本語授業が始まりました。

今回の日本語授業のクラスは日本語能力試験5級の合格を目指し授業を展開する為、多くの子どもが勉強したいと手を挙げてくれましたが、今回は事前に配布したプリントを各自で勉強してもらい、テストに合格した子どもだけを対象に授業をすることにしました。里帰りで家にプリントを持ち帰り勉強をしていた子ども、夜遅くまで勉強していた子どももいました。その努力が結果として実ったフン・パエット(高2)は100点中75点という一番良い結果で合格、他にはカエウ・ニエン(高3男)、ムット・ソクチュオン(中1女)が続いて高得点を取り、合格者7名での授業が始まり、1カ月が経ちました。

平日夜8時から9時まで勉強を行っています。スレイノイが自ら大学時代に習ったように、当時使用していた教科書を使いながら教えています。小さい子どもたちに負けない大きな声で日本語が響いています。

年に2回行われている日本語能力試験に合格し、将来日本へ行く機会を得ることが出来たら、日本語授業で養った能力を活かしてほしいです。

勉強することを楽しいと感じ、継続でき、試験には全員が合格出来ますようにと期待しています。

新入園児ソッカイとソッキー

孤児の件で連携を取り合っているポーサット州の社会福祉局から連絡が入り、社会福祉局と地区孤児担当と、孤児調査に行きました。

家に着くとお揃いの洋服を着た小さい男の子2人が出迎えてくれました。父親は働いておらず、母親は弟を連れて家出、今まで2人の面倒を見てくれていた祖母は最近亡くなり、現在は親戚や近所の人たちに食事等を工面してもらっているという状況でした。

父親は「2人がいるから働きに行くことが出来ない」と言っていたのですが、2人の為に働くべきではないかと内心思いながらも、父親の元を離れ園で安定した生活を送ることが2人にとって幸せなのではないかと判断し、引き取ることにしました。

兄のソッカイは父親と離れるという状況が解っている様子で、最後まで父親のそばにいました。その姿を見て、子どもたちの人生を預かるということに、強い責任を感じました。

2人が園で生活出来て幸せだと思える日がくるように、職員は日々寄り添い、しっかりサポートしていきたいと思えます。



テスト 漢字に苦戦するソッパリン(高2)



自己紹介について勉強中



左:ソッカイ 中央:ソッキー 右:父親



兄弟が増えて嬉しそうです